

(1) 横III-6-C調査グリッド断面図(東から)



(2) 横III-8-A調査グリッド(西から)



2



1



3



4



6



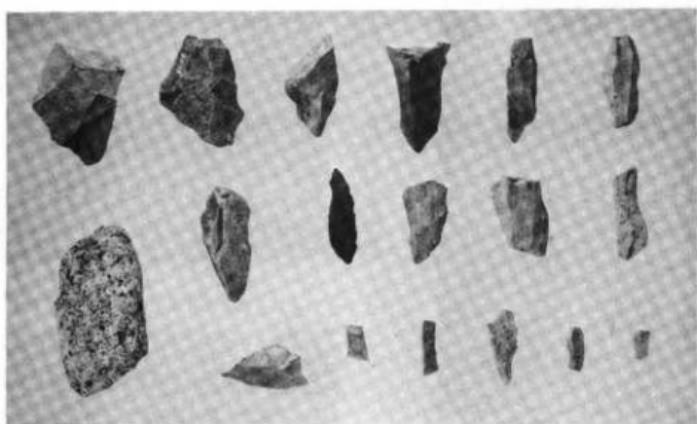
5

1.2 框Ⅲ-9 グリッド発掘状況

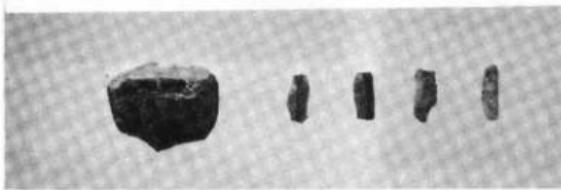
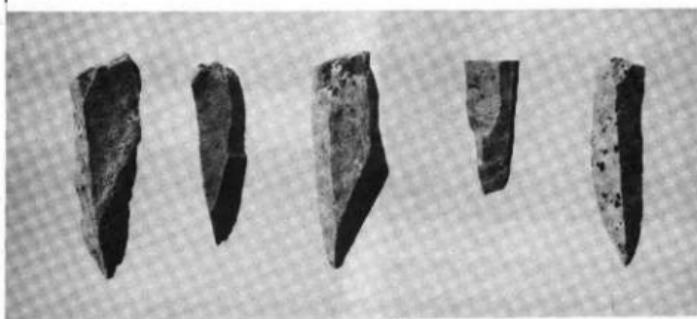
3 繩文時代土 状落ち込み

4.5.6 土器検出状

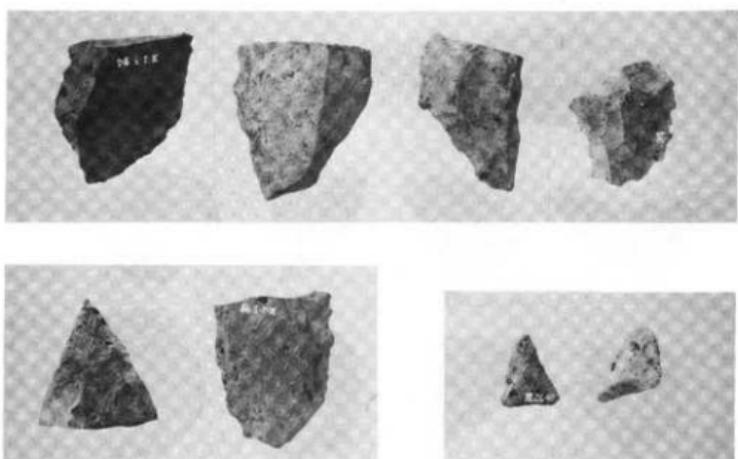
框Ⅲ-9 調査グリッド各景



(1) 横Ⅲ-1-K調査グリッド出土遺物



(2) 横Ⅲ-2-C・E・F調査グリッド出土遺物-1



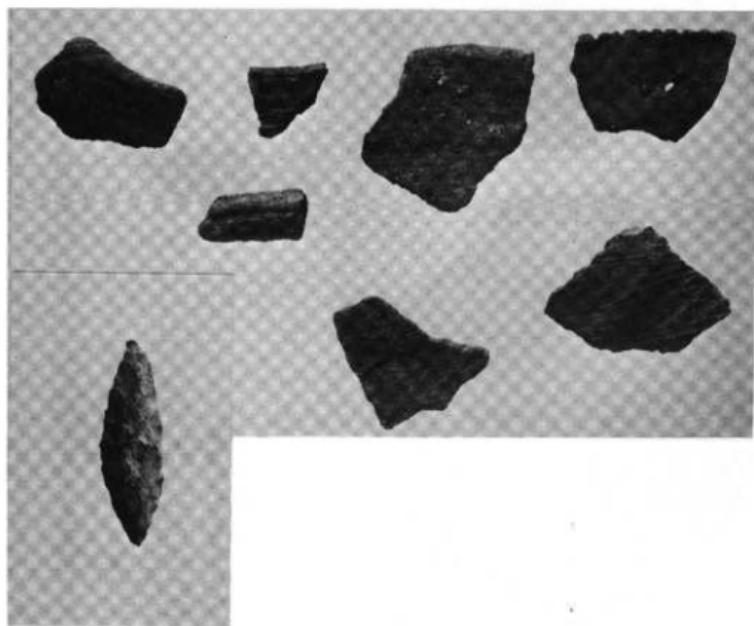
(1) 横III-2-C, E, F調査グリッド出土遺物-2



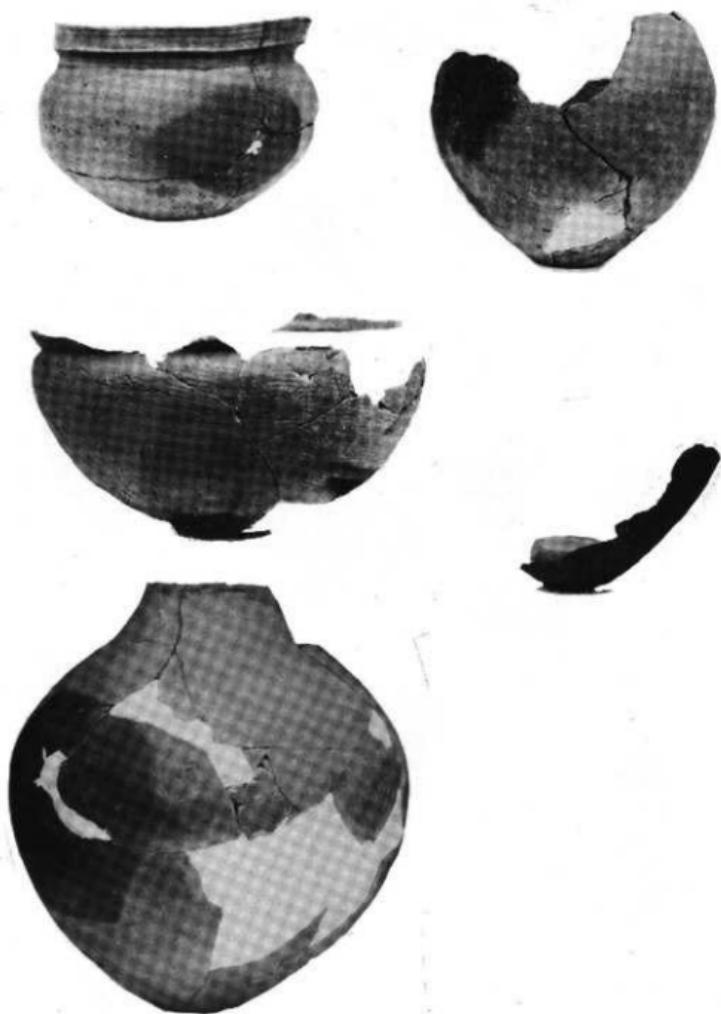
(2) 横III-5-B調査グリッド出土遺物



図版 8-A 調査グリッド出土遺物（網文式土器）



柵Ⅲ-9 調査グリッド出土遺物-1



標Ⅱ-9 調査グリッド土器棺を構成する土器

## 櫛石島第Ⅲ一南調査区

### 目 次

1. 立 地	129
2. 調査の経過	129
3. 調査区の設定	130
4. 調査の概要	131
5. 主たる調査区	132
6. 遺跡の範囲	142

### 挿 図 目 次

第1図	第Ⅲ調査地区グリッド配置図
第2図	Ⅲ-10-X・Y区平・断面図
第3図	Ⅲ-10-E・X・Y区出土遺物実測図
第4図	Ⅲ-10-X・Y区出土遺物実測図
第5図	Ⅲ-10-X・Y区出土遺物実測図
第6図	Ⅲ-10-F区第2層遺物出土状態
第7図	Ⅲ-10-F区断面実測図
第8図	Ⅲ-10-F区第2・6層出土遺物実測図
第9図	Ⅲ-10-F区第2層出土鉈実測図
第10図	Ⅲ-10-G区平面実測図
第11図	Ⅲ-10-I区出土須恵器実測図
第12図	Ⅲ-10-I区平面実測図
第13図	遺跡の範囲図

### 國 版 目 次

図版 1.	大浦浜遺景	143
	雪の大浦浜	
図版 2.	Ⅲ-10-X	144
	Ⅲ-10-X・Y	
図版 3.	Ⅲ-10-X	145
	Ⅲ-10-Y	
図版 4.	Ⅲ-10-F	146
	Ⅲ-10-F	
図版 5.	Ⅲ-10-G	147
	Ⅲ-10-G	
図版 6.	Ⅲ-10-H	148
	Ⅲ-10-I	
図版 7.	Ⅲ-10-E・X・Y	149
図版 8.	Ⅲ-10-E・X・Y	150
図版 9.	Ⅲ-10-F	151

## 1 立地

大浦浜は櫛石島の南東部に位置している。北は宮崎鼻、南は長崎鼻とそれに続く歩波島によって南北に仕切られ、西は低い丘陵によって曲がった海浜である。

浜の総延長は約 400 m で、西に広がる三角形状の砂州で奥行きは最長部で 250 m ある。

現汀線から西に行くに従い高さを増し、汀線より西へ 30~50 m のところで一番高くなり平均海抜 2 m の砂丘が南北に延びている。この部分には「すか」(州架) という古地名が残っている。

さらに西は再び高さを減じ干拓状態の後背地が出来ている。

浜堤と後背地を南北に分割する形で現在水路が通じ、後背地の水路ぞいの所は湿地となっている。

この浜は遠浅で、冬期には北西の風が強き吹き港や人家の場所としては不向なため畠となり果樹や麦などがつくられている。後背湿地の部分は現在かやが繁茂している。

浜の北側山沿いのところに「かりもし」(刈森干) という古地名が残っているのは興味深い。

今回調査対象となった第Ⅲ調査区は、水路南側の浜堤、後背湿地と丘陵裾部である。

南北にのびる海抜 2 m の砂丘上の畠の表面一面に師楽式土器片の散布がみられ、以前から製塩遺跡として知られていた所である。

## 2 調査の経過

櫛石島第Ⅲ調査区の調査は昭和52年1月24日から2月28日まで行なわれた。

現場作業に先だって、1月11日公民館で関係地権者を集め、調査の説明会を開催する。

1月17日、発掘予定地に行き地権者とともに土地を確認し、灌木伐採等の打ち合せを行う。

1月24日、本日より現場作業に入る。雑草灌木伐採と併行して、方眼区画に添ってグリッドを設定する。

1月27日、Ⅲ-10-C・E・H区の発掘を始める。H区第4層より須恵器、こしき、土錐など出土する。E区を東へ拡張することにする。

2月1日、Ⅲ-12-A・C・D区の発掘にかかる。

2月4日、Ⅲ-12-B・E・F区の発掘にかかる。

2月7日、Ⅲ-12-G・Hの発掘にかかる。Ⅲ-12-A~G区からは数点の遺物出土を見るのみ。

2月8日、Ⅲ-11-B・C・D区の発掘にかかる。Ⅲ-12-H区からサヌカイト、黒曜石の剥片出土。

2月10日、朝現場に行くと浜は一面の銀世界だった。発掘の終ったグリッドの埋め戻し

を行う。

2月14日、III-10-F区の発掘にとりかかる。第2層より師楽式土器・土錐・貝類などが出土。良好な包含層のようだ。

2月16・17日、気温が低く、浜は北西の風が吹き荒れているため発掘はやめ、出土遺物の整理を行う。海では異常低温でタイやニベが浮いているとのこと。浜に拾いに行くが流れついていかなかった。

2月18日、III-10-I区第4層で楕円形のピット検出。底に接して須恵器壺蓋出土。

2月22日、III-10-E区拡張部分(X・Y区)で、師楽式土器、土師器高壺等が完形でまとまって出土する。

2月23日、III-10-G区第2層上面に径1mの円形遺構があらわれる。

2月26日、発掘の終ったグリッドの写真撮影。実測図を取り終える。

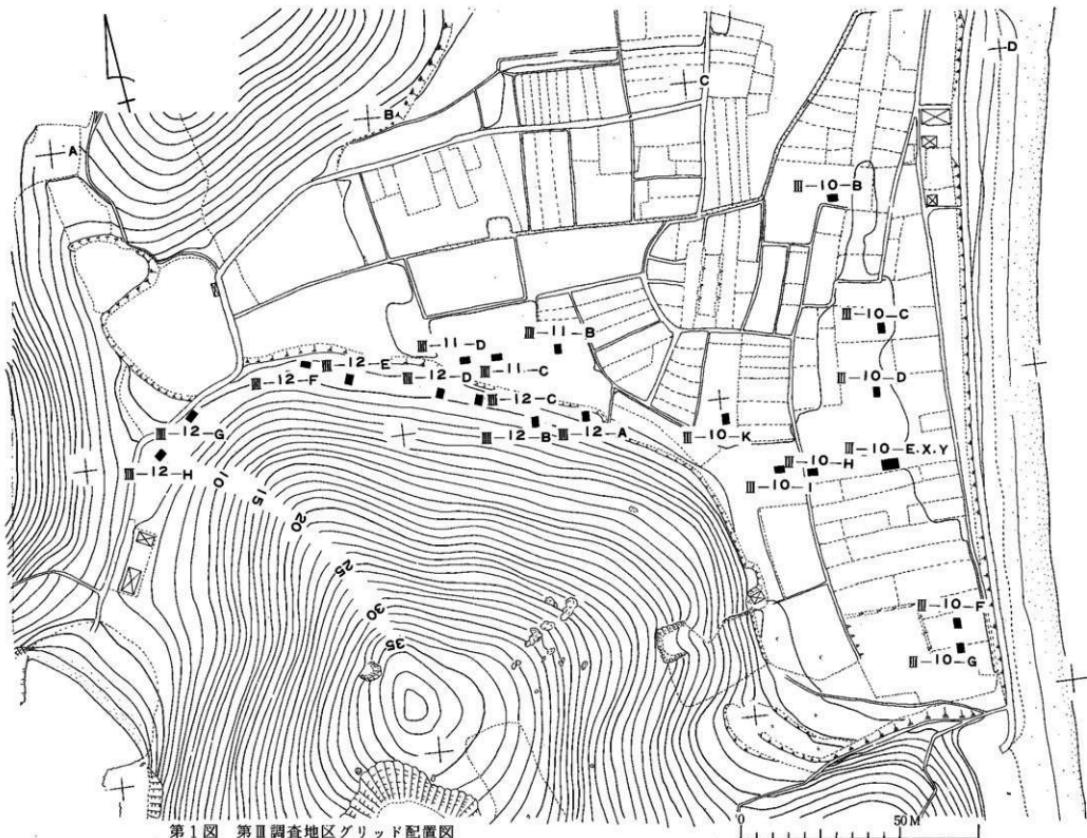
2月28日、出土遺物、器材を撤収して、調査をおえる。

### 3 調査区の設定(第1図)

大浦浜における今回の予備調査は、平地中央部を南北に流れる小川の西側平地部分と、その西側の山裾部を対象とした。したがって試掘調査では、(1)砂丘上、(2)後背地、(3)山裾での遺跡のあり方を追求する目的でグリッドが設定された。この調査でのグリッドは2m×3mの規模を基本的に採用した。

まず、砂丘上では海岸に面した微高地上に6個のグリッドを東西に設定し、その中央部の背後(北側)にあたる山寄りにも3個を設定した(III-10区)。後背地(III-11区)では平地のやや奥部に、川寄りに2個、山寄りに3個を設定したが、川寄りの2個のグリッドは発掘されなかった。以上のグリッドはIII-10-Kグリッドの北東端から5m東に位置するポイントを原点として東西一南北の方眼上に位置している。平地西側の山裾(III-12区)では、山裾をめぐって8個のグリッドを平地奥部に設定した。南端の2個(III-12-A・B)は前記の方眼上に位置する。

以上のようにして設定され、発掘されたグリッドは20個で、予備調査対象面積21.400m<sup>2</sup>のうち129m<sup>2</sup>を占める。



第1図 第Ⅲ調査地区グリッド配置図

## 4 調査の概要（第1表）

グリッド番号	面積(m <sup>2</sup> )	遺構	遺構	所見
1 III-10-B	6	なし	師楽、瓦器、須恵器	表土に摩滅した師楽破片、第3層中に流れてきたものと思われる須恵器、師楽あり
2 C	6	第2層に浅いピット	師楽、須恵器	表土層にのみ師楽破片、須恵器等を包含
3 D	6	なし	師楽、須恵器	表土層にのみ師楽破片、須恵器等を包含
4 E	15	浅いピット 3	土師器高坏 "壺 "小型丸底土器 "壺 師楽式土器 須恵器短脚付高坏 貝類、獸骨 弥生式土器	表土及び第2層中より左記の遺物出土。 住居址周辺部に位置すると思われる 第2層以下は無遺物層
X				
Y				
5 F	6	なし	師楽、土師器、須恵器、 黒色土器、魚骨、貝類、 釣針、弥生式土器	第2層は奈良～平安時代の遺物包含層 第6層より、弥生前期の土器出土
6 G	6	円形遺構	師楽、貝類	Fで検出された包含層が、このグリッドまで延びる
7 H	6	ピット2	土師器、須恵器、こしき たこ壺、土鉢	第4層に遺構面が存在する。H区で 土師器、こしき、須恵器等が散乱。 I区には粘土の堆積するピット検出、 周辺に住居址が存在することが十分に予測される。
8 I	6	ピット1	須恵器壺蓋	
9 K	6	なし	サヌカイト剝片、須恵器 壊身、輸入陶磁器	表土及び2層に遺物が数点ある。3 層以下は無遺物層が続く。
10 III-11-B	6	なし	陶磁器、土器片	表土下100～120cmに灰黑色粘質土 層があり、精査の必要あり
11 C	6	なし	須恵器、陶磁器、土器片	表土層に陶磁器、須恵器片が数点あるのみで、以下無遺物・無遺構の砂層 が続く
12 D	6	なし	須恵器、師楽、土器片	
13 III-12-A	6	なし	陶磁器、瓦器、瓦質土器、 土器片、土鉢、サヌカイト剝片	山の上からの流水が堆積しており、 その各層に遺物が数点含まれる。 F区は第3層中に各時代の遺物が一括して包含されている。 他所から運ばれてきた土であろう。
14 B	6	なし	土器片	
15 C	6	なし	陶磁器、瓦質土器、土器片、 サヌカイト剝片	
16 D	6	なし	陶磁器、師楽、土鉢、土 器片、サヌカイト剝片、 ナニート	
17 E	6	なし	瓦質土器、土器片	
18 F	6	なし	土釜、瓦器、陶磁器、須 恵器、サヌカイトコア	
19 G	6	なし	土器片、陶磁器	
20 H	6	なし	陶磁器、土器片、黒曜石 剝片、サヌカイト剝片	第3層上面より、土器片と石器剝片 が出土。このグリッドより南側が精 査の必要あり。

## 5 主たる調査区

今回の調査では20箇所に試掘区を設けたが、その結果山裾のIII-12区ではH区を除くと他のグリッドからは顕著な遺構や遺物はみなかった。

また湿地部であるIII-11区からも顕著な遺構や遺物は認められなかつたが、III-10-F区のところで述べるように地表下1.2mで弥生前期の甕が出土しており、浜のどこかに包含層や遺構が存在する可能性がある。

浜堤部のIII-10区では、当初浜堤部全域に製塩遺跡が存在すると想定であったが、発掘の結果、浜堤部中央より南に遺跡が広がっているようである。

この遺跡の広がりも場所によって時期が異なり、E・X・Y区は5世紀後半、H・I区は6世紀後～7世紀初め、F・G区は奈良～平安時代で三時期にわたり、表様の倒壊形脚部をもつ師楽式土器の存在から、弥生後期から歴史時代に至るまで長期間にわたって製塩漁撈活動がこの浜で行われていたことがわかった。

ここでは三時期の遺構や遺物を検出したグリッドについてその概要を述べてみることにする。

### (1) III-10-E・X・Y区(第2～5図、図版 )

浜堤部中央に設定した試掘区である。地表面の標高は約2.0mを測る。2×3mのグリッド(E区)の東壁面に師楽式土器完形品の一部がのぞいたため東へ2m幅拡張した(X区)。X区の東壁面にさらに土師器高环の完形品が出土したので、東へ1m幅拡張した(Y区)。結局3×5mのグリッドになった。

このグリッドの層位は、厚さ約20cmのちや褐色の表土層の下に、15～20cmの淡いちや褐色砂層の第2層が続く。この表土層と第2層に遺物が含まれている。

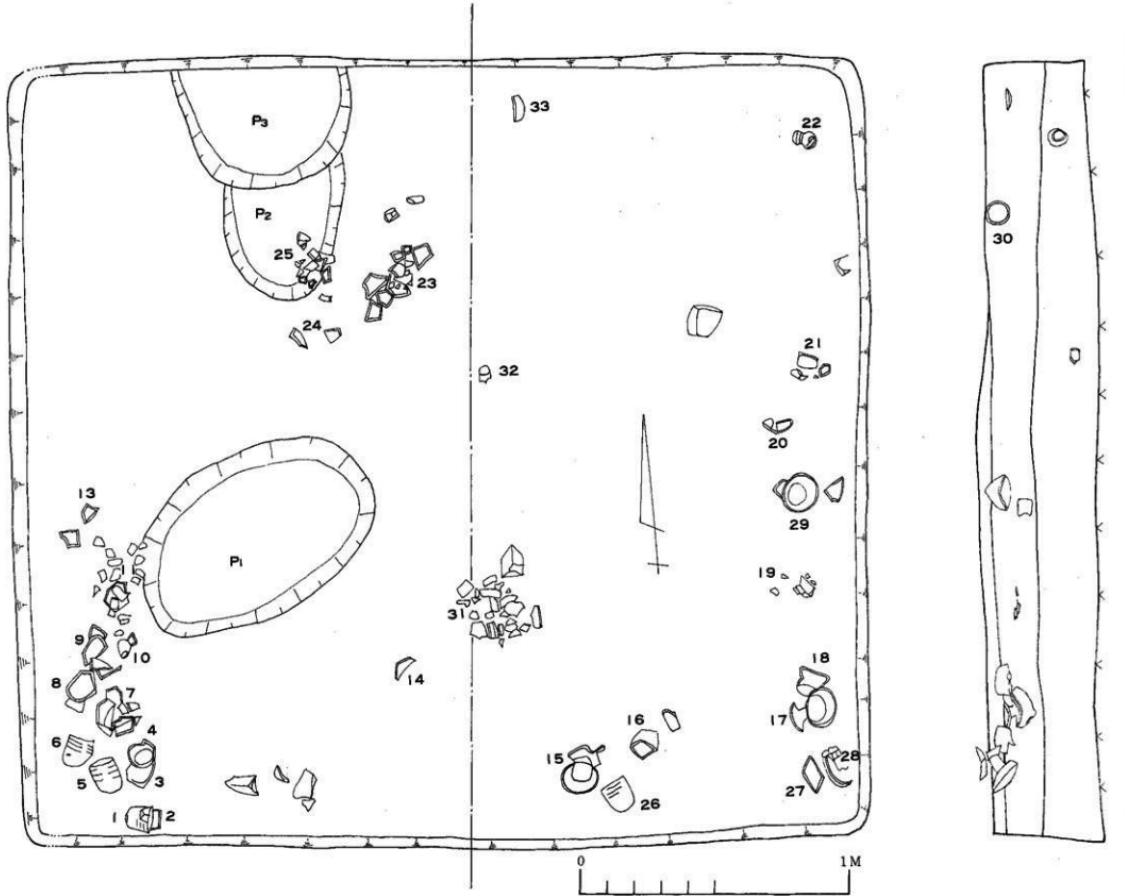
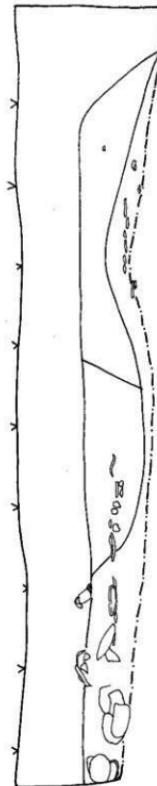
第3層は約20cmの厚さの灰褐色砂層で、この層以下は無遺物層である。全層とも花崗岩の風化土壤を基調とする中砂層である。表土層と第2層との区分は、地表の植物の根により色調が異なるのみで砂質や出土遺物などからは区分できない。

検出された遺構は、ピットが3ヶ所である(第2図)。P<sub>1</sub>は長軸95cm・短軸60cm・深さ10～15cmの楕円形で、土師器・師楽式土器の破片が出土した。P<sub>2</sub>は深さ約10cmで師楽式土器や貝類が出土した。P<sub>3</sub>からは師楽式土器や獸骨が出土した。P<sub>2</sub>, P<sub>3</sub>付近の表土から獸骨などが出土していることから、上層より掘り込まれていたものと思われるが、根物の根のため確認できなかった。

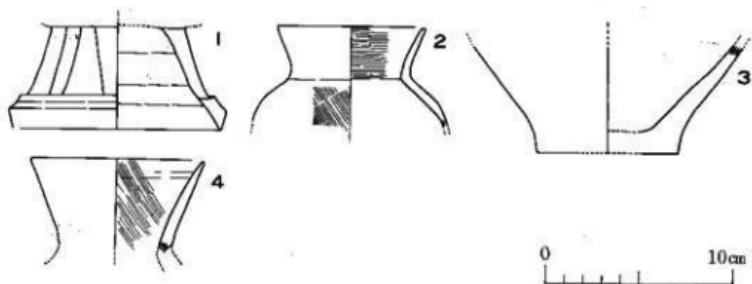
遺物は、E・X・Y区の表土から師楽式土器をはじめ土師器・須恵器が出土した。浜堤部にもうけた他のグリッドの表土層中出土の遺物に比べ、破片が大きく摩減の度合も少ない傾向にある。須恵器は壺の破片が数点と高环脚部が出土したが量的には少ない。

第2層中ではX・Y区から集中して遺物が出土したが、遺構にともなうものは少ない。ただ師楽式土器や土師器高环など完形品が多い点は注目される。このような遺物の出土状

L=220.0



第2図 III-10-X・Y平・断面図



第3図 ■-10-E・X・Y区表土層出土遺物実測図

況は、岡山県笠岡市高島の高島遺跡B区の状況に類似しており、P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>から貝類・獸骨などが出土していることから、住居址周辺に位置するものと考えられる。

第3図は表土より出土のもので、1は須恵器高环の脚部で底径11.0cmで青灰色を呈す。胎土には2mmほどの石粒を含み焼成は良好である。

2は、小型丸底土器で口径は7.7cmを測る。色調は外面赤かっ色、内面は灰黒色で胎土には1~2mmの石粒を含む。体部はハケ目、口縁部は横ナデ調整である。

3は、弥生式土器の底部で底径7.5cmを測る。赤いちゃ黃色を呈し胎土に1mm前後の石粒を含む。

4は、小型丸底土器の口縁部で口径は9.1cmを測る。黄かっ色を呈し胎土焼成とともに良い。外面は横ナデし、内面はヘラ削りの後斜め方向のハケ調整が施されている。

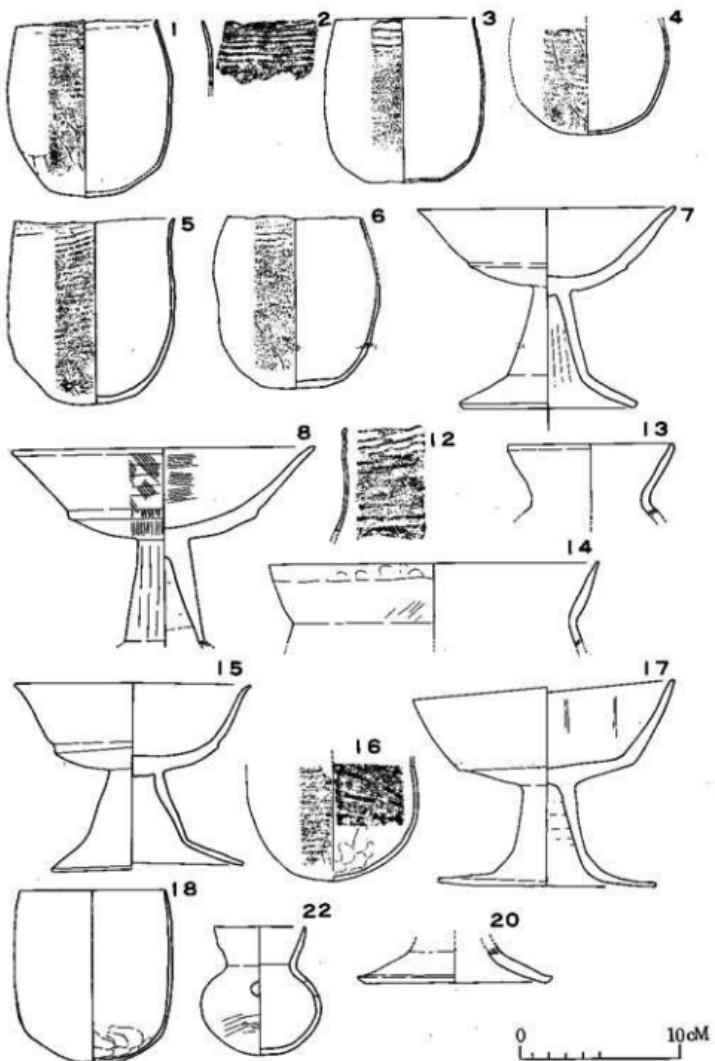
第2層中出土の節楽式土器は口径8.5~9cm・器高約10cm・厚さ2mmを平均値とする平底ふうの丸底形の極めて薄手のもので、稀に32のように小形のものがみられる。容量は400cc~500ccのものが普通である。

色調はちゃ褐色や黄かっ色を呈し、胎土に微砂を多く含み、たまに3~5mmの石粒を含むものがある。焼成は良好である。

成形調整技法をみていくと、底部は粘土ひもを巻き上げ3cmぐらいの高さにし、指頭で形を整えている。口縁部と胴部を別々に成形し、外面からタタキしめている。それぞれの接合部分には指頭痕が残っている。内面は底部を除くと丁寧に調整されており、部分的に刷毛目が残っている。

一方土師器は、甕をみると底部は丸底で外面は底部近くまで丁寧に刷毛目調整が施され内面はヘラ削りの痕跡を残している。口縁部は横ナデを施している。

高环は环上部、环底部、脚柱部、脚端部をそれぞれ貼りつけている。环部は刷毛の後横ナデ調整が施されている。脚柱部はしばった後ヘラ削りをし、横ナデ調整を施しているものもある。図化した5点のうち、8が最も古い要素を示している。

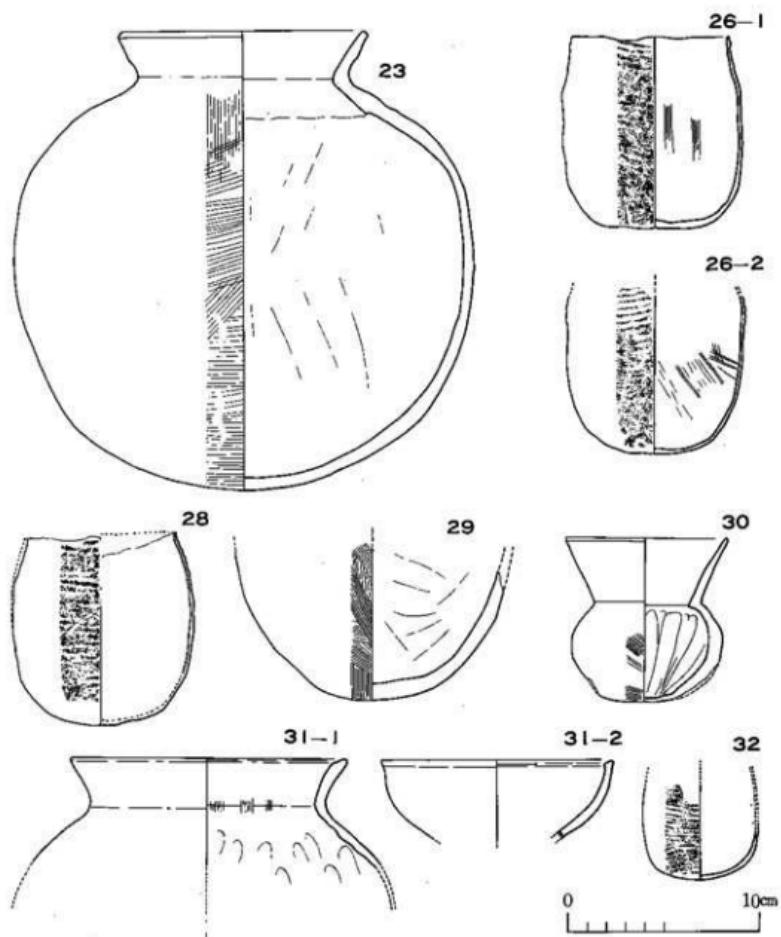


第4図 III-10-X・Y区表土(22)及び第2層(1-20)出土遺物実測図

第2表 III-10-X区出土遺物所見一覧表 (1) (番号は遺物取り上げ番号(図24)に一致)

番号	形	質	器表	口径 (cm)	口径 (cm) <sup>5</sup>	底	厚	底	外 底	内 底	縁	備考	
1	輪 壺式 土 器	器表	0.5	8.4	2	丸	通	丸	好	ち	＊	場色	
2	原陶式土器口縁部				2	織紋を含む良適		丸	好	好	＊	場色	
3	輪 壺式 土 器	器表	0.8	0.3	1~2	織紋を含む良適		丸	好	底	＊	場色	
4	原陶式土器底試断				2	丸	通	丸	好	底	＊	場色	
5	輪 壺式 土 器	器表	10.8	9.5	2	3~5の無石粒	丸	好	好	底	＊	場色	
6	輪 壺式 土 器	器表	10.0	8.0	2	丸	通	丸	好	好	＊	場色	
7	土 壤 瓦 片	器表	11.9	16.4		2~4の無石粒	普通	底	底	底	＊	外底の底端ナデ	
8	土 壤 瓦 片	器表	11.4	20.0		3~6の無石粒を含む	丸	好	底	底	＊	外底の外沿ハケの底端ナデ	
9	輪 壺 瓦 片	器表			2	織紋を含む	丸	好	底	底	＊	場色	
10	外底周縁 (7と合計)												
11	輪 壺 瓦 片	器表			2	織紋を含む	丸	好	底	底	＊	場色	
12	輪 壺 口付 瓦 瓶片	器表			2	織紋を含む良適	丸	好	底	底	＊	場色	
13	小笠丸底土器口縁	器表		9.8	4	1~2の無石粒を含む	丸	好	底	底	＊	外底の外周底ナデ	
14	土 壤 瓦 片	器表		10.6		2~6の無石粒を多く含む	普通	底	底	底	＊	外底の外周底ナデ	
15	土 壤 瓦 片	器表		11.1		丸	通	丸	好	底	底	＊	外底の外周底ナデ
16	輪 壺式 土 器	器表			2	織紋を含む良適	丸	好	底	底	＊	外底の外周底ナデ	
17	土 壤 瓦 片	器表		12.3	15.5	丸	通	丸	好	底	底	＊	外底の外周底ナデ
18	輪 壺 瓦 片	器表		10.2	8.6	2	織紋を含む良適	普通	底	底	＊	外底の外周底ナデ	
19	輪 壺式 土 器	器表			2	織紋を含む良適	普通	底	底	底	＊	外底の外周底ナデ	
20	上 領 瓦 片	器表		11.6		織紋を含む良適	丸	好	底	底	＊	外底の外周底ナデ	
21	土 壤 瓦 片	器表			1~2の無石粒	丸	好	底	底	底	＊	外底の外周底ナデ	
22	土 壤 瓦 片	器表	7.6	5.4	4	織紋を含む良適	丸	好	底	底	＊	外底の外周底ナデ	
23	土 壤 瓦 片	器表	12.6	24.0	24 cm	2~3の無石粒	普通	底	底	底	＊	外底の外周底ナデ	
24	輪 壺 瓦 片	器表			2	織紋を含む良適	丸	好	底	底	＊	外底の外周底ナデ	

番号	地 質	高 (cm)	口 (cm)	厚 (mm)	砂	粘 土	粉 砂	良 好	薄 い 小 砂	偏
25	河 漢 砂 片			1 ~ 2	細砂を含む頁岩					
26-1	鰐 漢 底 部	10.0	8.2	1 ~ 2	粗砂を多量に含む 頁岩	良 好	薄 板	良 好		
26-2	鰐 漢 底 部			1 ~ 2	粗砂を多量に含む 頁岩	良 好	薄 黄褐色	良 好	薄 い 黄褐色	内凹へき目、底面山尖にへび土をよせた跡が残る。
27	鰐 漢 砂 片			2	鳥	薄	良 好	良 好	内凹へき目、底面山尖にへび土をよせた跡が残る。	
28	鰐 漢 式 上 鳴	9.7	7.7	1 ~ 2	鰐砂土 1 ~ 2 = ① 長石を含む	良 好	良 好	良 好	内凹へき目、底面山尖にへび土をよせた跡が残る。	
29	土 効 器 表 面	純 8.2		7	長石を多く含む	良 好	良 好	良 好	良 好	やや尖りきらの底化、外面へき裂、内面へき裂
30	小 穴 大 汗 土 鳴	8.4	8.5		長石を含みしま り底化	良 好	良 好	良 好	良 好	口縁部底化、露底外側へき裂、内凹へき裂が残る。
31-1	土 効 器 表 面			14.4	鰐砂土 14.4 ~ 2 = ②	良 好	良 好	良 好	良 好	口縁部外側底化
31-2	土 効 器 表 面			12.2	鰐砂土 12.2 ~ 2 = ③	良 好	良 好	良 好	良 好	内凹へき目、露底底化
32	小 彩 沙 磚			2	砂粒を含む	良 好	良 好	良 好	良 好	
33	須 恒 器 高 扇 外 部			~	良 通	極 密	灰 黑	良 好	良 好	外面丁寧なへき裂、内底達ナデ



第5図 E-10-X・Y区第2層出土遺物実測図

小型丸底土器は口縁部は横ナデ調整が施され、胴部は刷毛目調整である。これらの要素もつ土器は布留式の新しい段階に位置づけられるであろう。

(iv) III-10-F区(第6~9図、図版)

このグリッドは、浜堤部南端にもうけたものである。地表面の標高は約215mある。

層序はまず暗褐色の表土層が20cm程である。この層には師楽式土器の破片が含まれている。表土層の下には厚さ約40cmのこげちゃ色の土層が堆積している。この第2層は砂層ではなく、有機質の柔かい土からなり、5cm前後の師楽式土器の破片をはじめ須恵器・土師器・土錐・魚貝類を多く出土した良好な遺物包含層である。



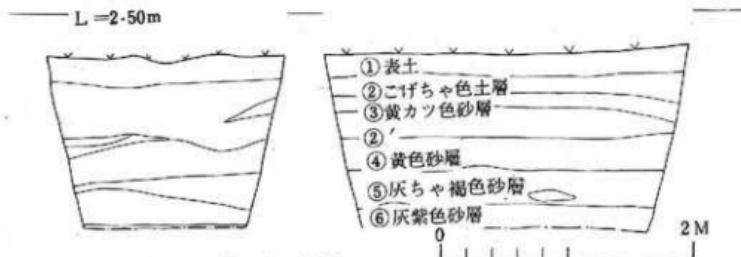
第6図 III-10-F区第2層遺物出土状態

グリッド西半分ではこの層の中間にいりこんだ形で黄かっ色の砂層が堆積している。この層中には弥生時代から古墳後期にかけての土器類が混在しており、第2層の堆積途中にこれらの遺物を含んだ砂層が流れこんだものであろう。

第4層は厚さ約25cmで粒の大きい黄色の砂層で、第5層は厚さ約30cmの灰ちゃ褐色の砂層とともに無遺物層で自然堆積と思われる。

第6層は厚さ20~30cmの灰紫色の砂層でサヌカイト剝片、弥生前期の甕・炭が出土した。

第7層は灰青色の砂疊層で、海浜部にみられる自然面である。

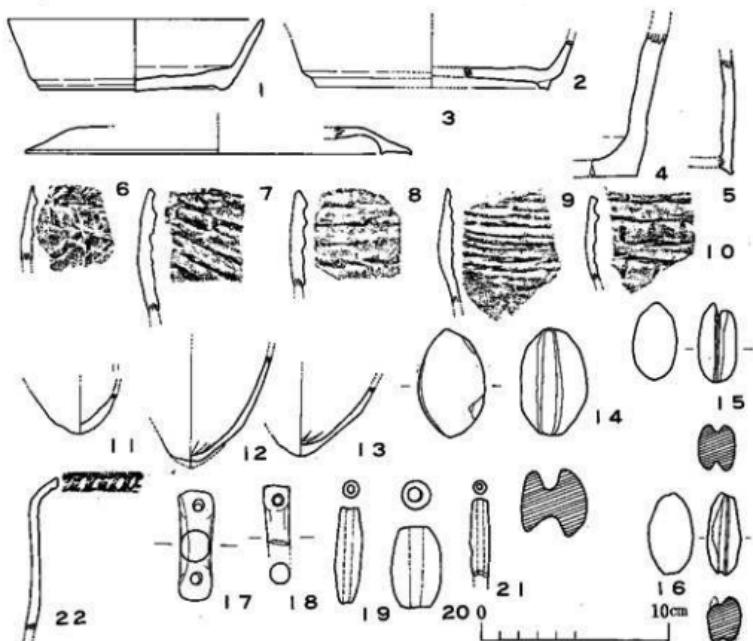


第7図 III-10-F区断面実測図

第8図は第2層及び第6層出土の遺物である。1は、須恵器壺で口径13.4cm、器高3.8cmを測る。外面は暗灰色、内面は薄褐色で焼成は不良である。

2も須恵器壺で底径12.4cmを測る。色調はうすい褐色をおびる灰色で胎土は微砂を含み良運され焼成は良好である。

3は壺蓋か盤の蓋であろう。復原口径20.5cmを測る。多少紫がかった灰色を呈し焼成は



第8図 III-10-F区第6層(1-21), 第2層(22)出土遺物実測図  
良好である。  
4は壺, 5は水瓶の底部であろう。ともに灰青色を示し焼成は良好である。  
6~10は師楽式土器の口縁部である。タタキ目のないものもあるが量的には極めて少なく、大半がタタキ目がある。黄かっ色ないし赤かっ色を呈し、微砂を多く含み焼成は良好である。  
11~13は尖底の師楽式土器の底部で火をうけたためか外面が象離しているものが多い。外面は灰ぢや色を示し、内面は赤かっ色を呈す。  
14~16は有溝土錐で、14は61.1 g, 15は20.1 g, 16は17.3 gある。  
17, 18は棒状両孔土錐で、17は21.4 gあり18は残存部で5.8 gある。  
19~21は管状土錐で、19は7.8 g, 20は32.4 g, 21は残存部で4.3 gある。  
22は、第6層出土の弥生前期の壺の口縁部である。暗い灰ぢや色を呈し、胎土には1~2 mmの石粒を多く含む。  
第9図の釣針は、第2層出土のものである。1, 2ともに基部を欠損している。残存長は約1.5 cmで先端にかえりがつく。断面は円形で径は3 mmある。2は、2本の針が銹化し

て接合したもので、ともに先端にかえりがつく。断面はともに円形で径約 2 mm ある。

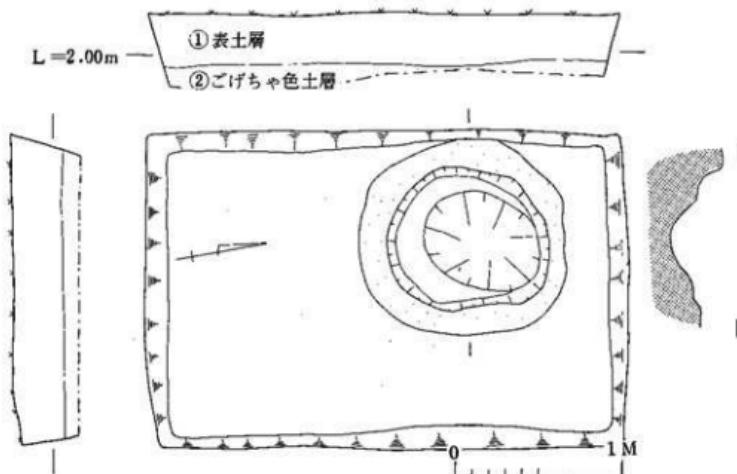
（イ）III-10-G区（第10図、図版）

F区の南 5 m にもうけたグリッドである。地表面の標高は約 215 m を測る。第2層上面において円形遺構を検出したため、それ以下の層の試掘は行っていない。

検出した遺構は径 1.2 m、深さ 30 cm の土坑である。

表土を除去し、第2層に入ると、幅約 15 cm の白い帯が輪状にまわり、その部分を詳しく観察すると、薄い緑白色の液がこぼれて砂を固めたような状況を呈している。輪の中の堆積は第2層の堆積土と同じこげちゃ色の砂層で師楽式土器が多く含んでいる。

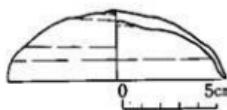
砂が白く凝固している部分を手がかりに、それ以外の砂を除去すると、外径 1.2 m、内径 0.95 m で南が 2段になる深さ 30 cm の土坑となった。性格は不明である。



第10図 III-10-G区平面実測図



第9図 III-10-F区第2層出土釣針実測図



第11図 III-10-I区出土須恵器実測図

(=) III-10-H・I区(第12図、図版 )

浜堤部中央やや南の、山寄りの部分にもうけたグリッドである。地表面の標高は約 1.9 mを測る。

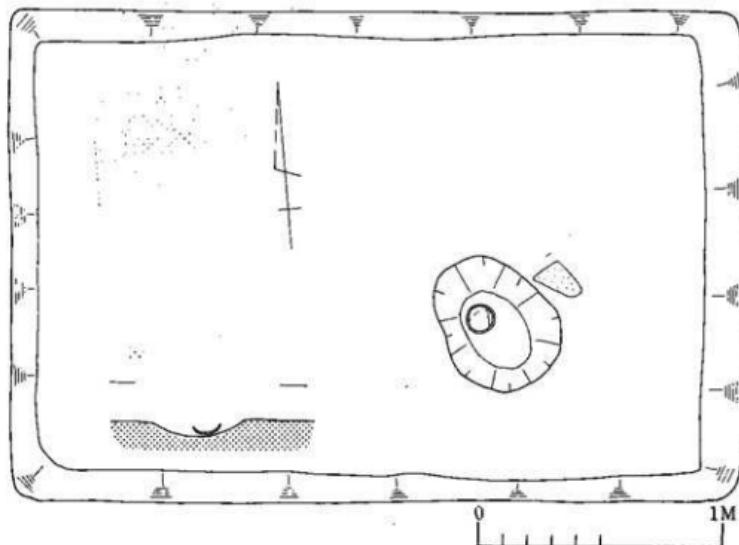
層序はH・I区とも同じで、暗かっ色の表土層が20~25cm堆積している。師楽式土器や須恵器の破片がわずかに出土する。第2層は灰黄かっ色の砂層で、第3層は灰黄青色の砂層で両層からはほとんど遺物は出土しない。第4層は灰青色の砂層で、褐色の腐植土がまだ状に混入している。この第4層より須恵器壺・甕・土師器高壺・瓶、土錘、蛸壺などが出土した。第5層は灰青色の砂礫層で海浜部通有の自然面である。

遺構はH・I区とともに第4層で検出された。

H区ではピットが2つ検出されたが、ピット内から出土遺物はなかった。

I区では長軸58cm、短軸41cm、深さ8cmの橢円形ピットを検出した。灰黒色の粘土が層をなす堆積しており、堆積土中よりピットの底に接して須恵器壺蓋が水平に上に向いた状態で出土した。

この須恵器壺蓋(第11図)は口径11.5cm、器高3.7cmで灰白色を呈している。焼成はあく瓦質に近い。頂部はヘラ切りのままである。



第12図 III-10-I区平面実測図

#### 6. 遺跡の範囲（第13図）

今回の第III調査区の予備調査の結果、浜堤部南に製塩・漁獲遺跡が広がることがわかつた。また地表下1.2mで弥生前期の遺物が出土し、中央水路より北のグリッドでも同様のものが出土していることを考えると、この時期の遺跡が浜堤部、後背湿地のどこかに所在する可能性がある。

III-12-H区で出土した土器、サヌカイト・黒曜石剝片はせきの浦に広がる遺跡の一部をなすものではないだろうか。



第13図 遺跡の範囲図



撫石島大浦浜発掘区遠景（北から）



雪の大浦浜



III - 10 - X区第2層遺物出土状態（南から）



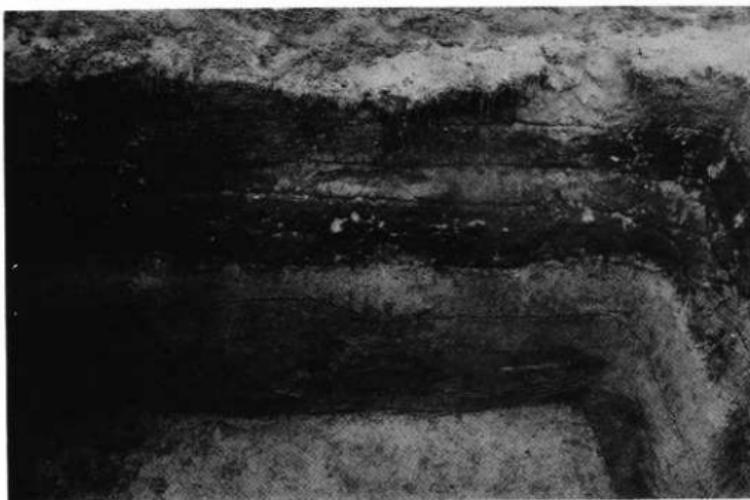
III - 10 - X・Y区第2層遺物出土状態（北から）



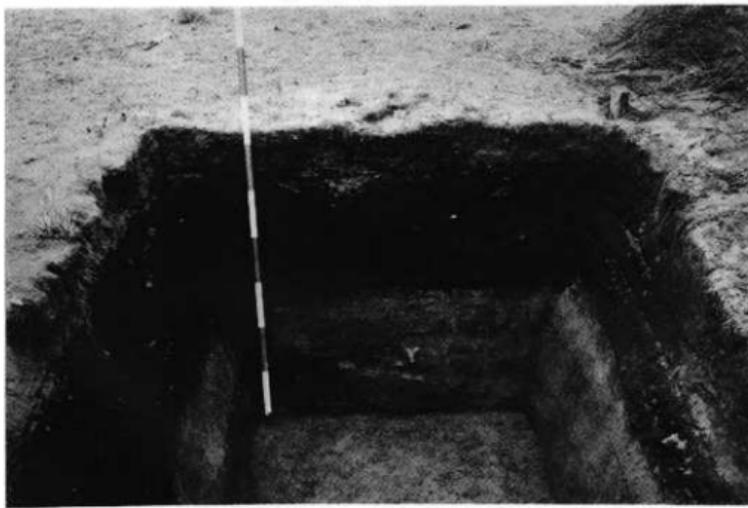
III-10-X区第2層師楽式土器出土状態（東から）



III-10-Y区土師器高杯出土状態（西から）



III - 10 - F 区西壁層序



III - 10 - F 区南壁層序



Ⅲ-10-G区第2層ピット検出状況（東から）



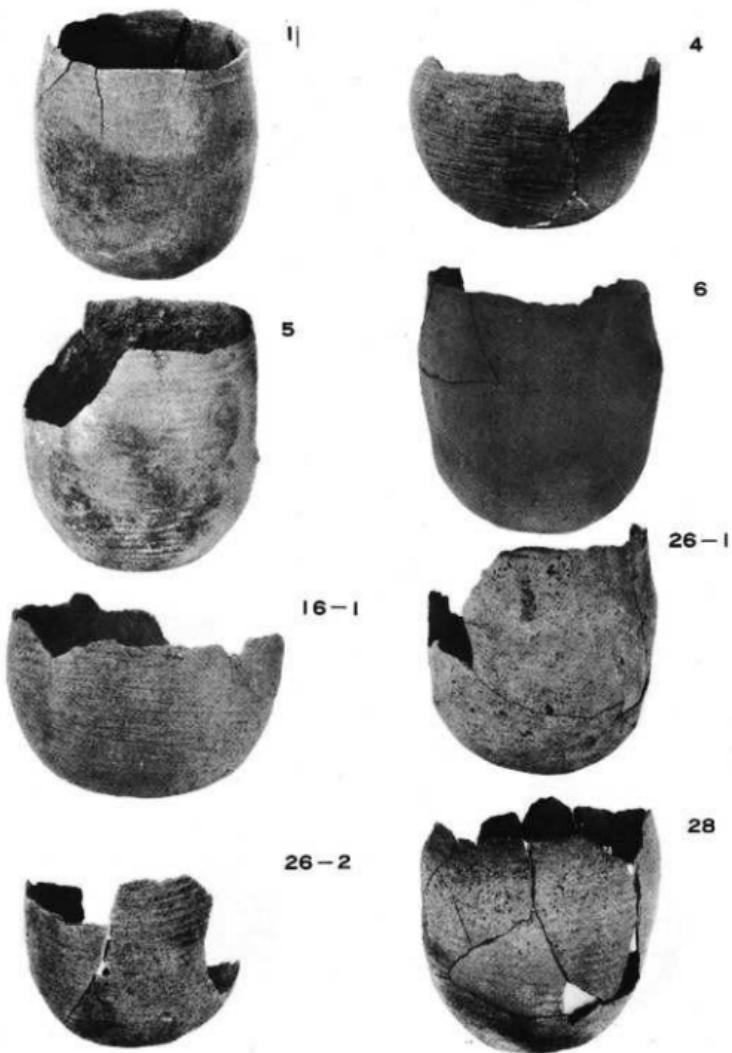
Ⅲ-10-G区第2層ピット堆積土除去後（北から）



III-10-H区第4層遺構面遺物出土状態（北から）



III-10-I区第4層遺構面（北から）



III - 10 - E • X • Y



7



8



15



17



22



30



23



29

III - 10 - E • X • Y



III - 10 - F

# 与島（Ⅰ・Ⅱ）

## 目 次

1 立地	155
2 調査の経過	155
3 調査区の設定	159
4 調査の概要	160
5 主たる調査区	164
6 遺物	166
7 遺跡の範囲	170

## 挿 図 目 次

第1図	与島第Ⅰ・Ⅱ調査地区グリッド配置図
第2図	I-A-1グリッド平面図及び断面図
第3図	I-E-2グリッド平面図及び断面図
第4図	I-I-5グリッド断面図
第5図	II-B-1グリッド平面図及び断面図
第6図	与島第Ⅰ・Ⅱ調査地区出土石器
第7図	与島第Ⅰ調査地区出土縄文式土器
第8図	I-I-5地区出土遺物実測図
第9図	遺跡の範囲図

## 図 版 目 次

図版1	与島西方地区調査地遠景(1) ..... 173 # (2)
図版2	I-A-1グリッド北壁 ..... 174 I-A-5グリッド(スクリーパー ..... 出土状態)
図版3	I-G-2グリッド東壁 ..... 175 I-I-4グリッド西壁
図版4	I-I-5グリッド西壁 ..... 176 II-B-1グリッド(スクリーパー ..... 及び北東壁)
図版5	第Ⅰ第Ⅱ調査区出土遺物(1) ..... 177
図版6	# (2) ..... 178

## 1 立地(図版1)

与島は周囲約4kmの島で、東西に2本の丘陵とそれにはさまれた低地部よりなっている。東側の丘陵は、中央よりやや北の地点で標高77mを測り、そこを最高所として北東から南西方向に尾根筋が延びている。

この丘陵部とその裾一帯を東方という。

一方、西側の丘陵では最高所は北端部に位置する石槌神社付近で、標高72mを測る。ここより高さを除々に減じながら南に丘陵が延び、総長約1kmの尾根筋が続く。

この丘陵部とその裾を西方と呼んでいる。この2本の丘陵は南で曲がりながら高さを減じ相接している。

したがって北から遠望すると、北東びらきのU字形をした島にみえる。

東西2本の丘陵にはさまれた中央部は標高2~3mの砂地で、現在は畠地となっている。全島花崗岩からできており、地表面は花崗岩の風化した粗い砂でおおわれている。

今回の調査対象地区は、西方の丘陵の南部の、標高49mの小丘陵の東斜面(第II調査区)と、それから北東に派生する平均標高16mの低丘陵およびその先端の平地部(第I調査区)である。

第II調査区は比較的急な傾斜面で部分的に開墾されているが、現在は松林となっている。

第I調査区は、低丘陵の頂部・斜面ともに開墾され畠地となっている。平地部は砂地で、丘陵からの水で、湿地帯となっている所が多い。

## 2 調査の経過

与島における予備調査は昭和15年11月2日より発掘作業を開始したが、調査予定地が未買収地であるために、それに先立って10月から調査のための準備が進められた。

まず、現地観察の後、地図上で試掘グリッドを設定し、それにもとづいて地権者の確認を行なった。そして、10月12日には地権者の方々に集まっていたので、調査の内容と土地・立毛の補償等についての説明会を催した。その後、各地権者と契約を結んでいったが、この段階で試掘グリッドの位置・数量に若干の修正を加え、10月18日から調査予定地の伐採・グリッドの設定を行ない、この作業を11月1日に完了した。

発掘作業はII-A区において11月2日から開始された。ここでは11月8日まで5日間を費して、II-A区の6グリッドとII-B区の2グリッド(II-B-1・2)を発掘したが、II-B-1でサヌカイト製スクレーパーを1個検出したほかは、サヌカイト片が若干出土したのみであった。

II-A区・II-B-1・2の調査終了後、都合により第II調査地区的発掘を中止し、11月8日から第I調査区にうつり、丘陵斜面に位置するI-D区の3グリッドの発掘に着手した。I-D-1は開墾によって旧地形が削られていたため、表土の下はすぐ地山となっていた。

たが、I-D-3は逆に厚く埋立てられていた。I-D-3から翼状剥片と思われるサヌカイト片を検出する。

I-A区・I-B区の調査はともに11月11日から始められた。I-B区は7グリッドすべてを発掘したが、I-A区ではさきにI-A-2・3のみが発掘された。両区はともに平地にあり、現地表下1.5m以上にわたって砂層が堆積し、上部からは須恵器片などが出土したが、下部からはほとんど遺物が出土しなかった。また、湧水のため、さらに下部の砂層は発掘できなかった。

11月18日からI-C区の調査が行なわれた。発掘の結果、斜面上方のグリッドでは開墾のため旧地形が削られて地山が非常に浅く、下方のグリッドでは埋立てられた土が厚く堆積していることが明らかとなった。

I-F区の調査は11月22日より25日まで行なわれた。しかし、丘陵の尾根筋に位置するため、堆積土はほとんど存在せず、遺物もごくわずかしか検出されなかつた。

I-F区につづいてI-H区の発掘が行なわれたが、尾根側のグリッドには堆積層はなく、斜面側のグリッドでは開墾時の埋立て土が1m前後堆積していた。

11月29日から12月1日にかけてI-G区の2個のグリッドを調査した。I-G-1では谷底近くの斜面、I-G-2では谷底部があらわれ、自然の堆積層中より瓦器・輸入磁器片などが出土した。

I-E-4・5の調査は11月30日から4日間実施され、開墾時に埋立てた土砂を除くと丘陵斜面があらわれた。

I-I区は12月2日から8日まで調査した。その結果、谷状地の奥部に位置するI-I-5グリッドには良好な中世の包含層が存在することが明らかとなり、輸入磁器・瓦器・須恵器・土師器・土錘などが出上した。

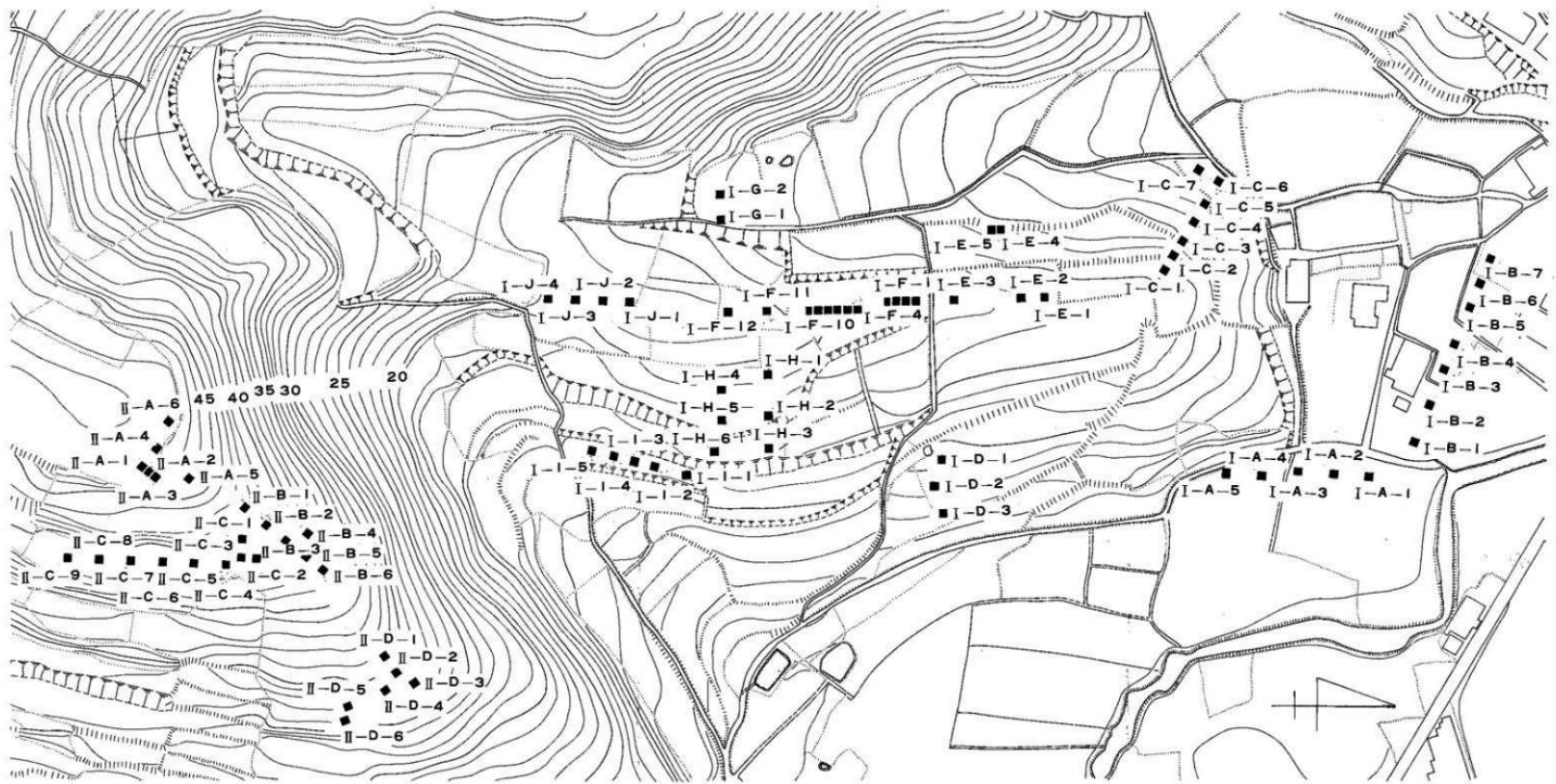
つづいてI-J区が発掘されたが、堆積層はなく、遺物もほとんど出土しなかつた。

I-A-1・4・5は12月9・10日に発掘され、I-A-1グリッドの砂層下部より、与島ではじめて縄文後期土器の存在が確かめられた。

I-E-1～3は12月10・11日に調査されたが、丘陵尾根筋に立地する他のグリッドと同様、これらのグリッドでも堆積層は全く存在しなかつた。しかし、I-E-2では表土中よりサヌカイト製ナイフが出土し、今調査唯一の確実な旧石器となつた。

以上で第I調査地区の試掘をすべて終了し、12月11日より第II調査地区C区の調査を行なつた。しかし、II-C-5～9グリッドは開墾のために堆積土が削られてしまつており、II-C-1～4からも遺物はほとんど出土しなかつた。

12月15日からII-B区、さらにつづいてII-D区の調査が実施されたが、自然の丘陵尾根筋以外の特徴は認められず、II-D-4で若干のサヌカイト片・チャート片が出土したのみであり、12月20日をもつてすべての発掘作業を終了した。



第1図 与島第I・第II調査地区グリッド配置図

0 100M

つづいて12月22日よりグリッド配置図の作成と埋め戻しを行ない、12月24日に完了し、この日をもって昭和51年の現場作業を終了した。

昭和52年の調査は1月6日より開始し、出土遺物の水洗・注記・整理を行なった。そして、現場での遺物整理が一段落ついた後、1月10日に予備調査の終了報告会を与島小学校講堂で行ない、島の方々・児童生徒の参加をえた。

1月11日、与島を離れ、足掛け4ヶ月に及ぶ調査を終了する。

### 3 調査区の設定（第1図）

昭和51年度実施された与島島内の予備調査範囲は、与島中学校の南に位置する低丘陵とその北・東側の一部平地、及び低丘陵のさらに南側丘陵の北東部尾根筋とその周辺斜面である。

試掘調査は、上記対象地域に2m四方・4m<sup>2</sup>を基本とするグリッドを設定して行なわれた。すなわち、中学校の南の低丘陵とその周辺部を第I調査地区、その南の丘陵部を第II調査地区とし、丘陵尾根部・斜面・平地に設定したわけであるが、なにぶん対象地は未買収地であり、調査実施にあたっては地権者の承諾のもとに土地の借上げと作物・立木の補償を必要とすることなどの困難もあって、グリッドの設定は不規則なものとならざるをえなかった。

まず、第I調査地区では低丘陵の北東側平地に5個、北側平地に7個のグリッドを設定し、前者をA区、後者をB区とした。各グリッドにはアラビア数字による番号を付し、表示はI-A-1・I-B-1のようになつた。最初のローマ数字は大調査地区、最後のアラビア数字はグリッド番号を表わすことになる。ただ中央のアルファベット記号は厳密には小調査地区を示すものではなく、やまとまりのあるグリッド群を示しているにすぎない。以下同様に、丘陵北西部の斜面に7個（C区）、中央部東斜面に3個（D区）、尾根部やや北寄りと西側斜面に5個（E区）、中央部の尾根上に12個（F区）、西側谷部に2個（G区）、東側斜面に6個（H区）、丘陵南東部緩斜面に5個（I区）、南部尾根上に4個（J区）のグリッドを設定し、合計56個のグリッドで第I調査地区をカバーした。

第II調査地区的丘陵は前者に比べて高く、傾斜が急であり、斜面部に遺跡の立地は考えられなかつたので、尾根筋を中心に27個のグリッドを配置した。すなわち、丘陵平坦面の端部に6個（A区）、上部尾根筋に6個（B区）、B区と同じレベルの東側斜面に9個（C区）、B区からやや下った尾根筋とそれに近接した東側斜面に6個（D区）である。

以上の試掘グリッド合計は83個、約330m<sup>2</sup>であり、予備調査対象面積約33,700m<sup>2</sup>のはば1%にあたる。

## 4 調査の概要

No	グリッド番号	面積 (m <sup>2</sup> )	遺物			所見
			サスカイト	チャート	その他	
1	I-A-1	4	10		縄文 7・土師器10・瓦質土器1・陶磁器7・有溝土罐1・鉄片2	付近の低地に縄文時代の包含層が存在する可能性あり。 I-A地区は各時代の遺物が多く出土し、今後の精査が必要。
2	2	#	4		須恵器1・土師器25(碗2)・瓦器碗3・陶磁器5・鉄片1	
3	3	#	7		縄文 1・須恵器1・土師器50(碗2・土釜1)・陶磁器8・輸入磁器1・有孔土罐6・木片	
4	4	#	3	2	縄文 1・須恵器2・土師器6・瓦質土器1・陶磁器3・有溝土罐1	
5	5	#	10		スクレーパー1・土師器2・陶磁器5・輸入磁器1	スクレーパーは縄文時代のものか
6	I-B-1	#			須恵器1	
7	2	#		1	土師器8・瓦器碗1・陶磁器3	
8	3	#				
9	4	#	1		土師器2(碗2)	包含層の可能性のある灰黒色粘質土層を検出
10	5	#				
11	6	#				
12	7	#				出土遺物なし。旧地形は海に面した谷状地か。
13	I-C-1	#				旧地形は削平されている。
14	2	#			瓦質土器1・陶磁器6・製塙土器(?1)	" "
15	3	#	2		土師器6・陶磁器4	
16	4	#			土師器4・瓦質土器1	
17	5	#	1		陶磁器9	
18	6	#	1		須恵器1・土師器12・瓦質土器1・陶磁器1	旧地形は谷状地の斜面下部、良好な包含層は検出されず。
19	7	#			須恵器2・土師器9・瓦質土器2・陶磁器10(すり鉢2)・有孔土罐2	" "
20	I-D-1	#		1	土師器1・陶磁器2	畑作のため、旧地形の削平が顕著

No	グリッド 番号	面積 (m <sup>2</sup> )	遺 物			所 見
			サスカイト	チャート	そ の 他	
21	2	#	1		土師器 3・瓦質土器 1・陶磁器 6	
22	3	#	1	2	翼状片 1(?)・須恵器 1・土師器 22(小皿 7)・瓦質土器 1・陶磁器 19・鉄片 1	丘陵斜面 良好な包含層は存在せず
23	I-E-1	#	2		土師器 5・瓦質土器 1・陶磁器 20	I-E-1~3は畑作のため、旧地形の削平が顕著
24	2	#	2		ナイフ 1・土師器 5・陶磁器 7・有孔土錐 1・鉄片 1	旧石器時代の包含層は存在せず
25	3	#	2		土師器 3・瓦質土器 1・陶磁器 9・有孔土錐 1・鉄片 2	
26	4	#	6		土師器 24(小皿 1)・瓦器碗 1・瓦質土器 4・陶磁器 22	
27	5	#	4	2	須恵器 1・土師器 25・陶磁器 19	
28	I-F-1	2.8				I-F 地区は畑作のため旧地形の削平が顕著
29	2	4	6	1(?)	土師器 16・陶磁器 7・有孔土錐 1・鉄片 1	
30	3	#	3			
31	4	#			土師器 3	
32	5	#			土師器 3・陶磁器 2・有孔土錐 1	
33	6	#			土師器 2・陶磁器 2	
34	7	#	1(?)			
35	8	#				
36	I-F-9	4				
37	10	3				
38	11	4			土師器 1・陶磁器 3	
39	12	#			土師器 2・陶磁器 1	
40	I-G-1	#	1		土師器 3	
41	2	#	2		須恵器 1・土師器 29・瓦器碗 3・瓦質土器 7・有孔土錐 1	旧地形は谷状地の底部。土砂の堆積が顕著
42	I-H-1	#		1	須恵器 1・土師器 6・陶磁器 6・寛永通宝 1	
43	2	#	1	2	土師器 21・陶磁器 17・有孔土錐 1・鉄片 1	
44	3	#	2		土師器 6(小皿 1)・陶磁器 6・有孔土錐 1	

No	グリッド 番号	面積 (m <sup>2</sup> )	遺 物			所 見
			サスカイト	チャート	そ の 他	
45	4	#	1		土師器 3・陶磁器 6・鉄片 1	
46	5	#	5	1	土師器 7・瓦質土器 2・陶磁器 4	
47	6	#	3	3	石鐵 1・土師器 15・瓦質土器 4・陶磁器 28	
48	I-I-1	#	1		石鐵 1・須恵器 1(ねり鉢 1)・土師器 58・瓦器碗 9・陶磁器 9・有孔土錐 1	I-I 地区は中世の遺物が多く出土。旧地形は丘陵緩斜面。
49	2	#	10	1	須恵器 3・土師器 47(土釜 1)・瓦器碗 2・瓦器土器 1・陶磁器 26(備前すり鉢 1・備前 1)・有孔土錐 1・鉄片 3	
50	3	#	20		須恵器 1(すり鉢 1)・土師器 60(碗 2・小皿 3・土釜 1)・瓦器 1・瓦質土器 6・陶磁器 9(ねり鉢 1)・輸入磁器 1・有孔土錐 2・有溝土錐 1	
51	4	#	7	1	黒曜石 1・須恵器 3・土師器 42(碗 1・小皿 2)・瓦器碗 2・陶磁器 7・輸入磁器 1	
52	5	#	14	1	須恵器 20(ねり鉢 3・片口 1)・土師器 180(碗 9・小皿 2・土釜 1・すり鉢 2)・瓦器碗 1・瓦質土器 25(すり鉢 1)・陶磁器 31・輸入磁器 1・有溝土錐 3	鎌倉時代と推定される良好な包含層が存在。
53	I-J-1	#				I-J 地区は畑作のため旧地形の削平が顕著
54	2	#		1	須恵器 2・陶磁器 4(備前 1)・輸入磁器 1・有孔土錐 1	
55	3	#			土師器 3・瓦質土器 1・陶磁器 8	
56	4	#			須恵器 1	
57	II-A-1	3.4		1	土師器 7・陶磁器 10	
58	2	3	(1)		土師器 1・陶磁器 3	
59	3	3.4	(1)		水晶 1・土師器 2・陶磁器 3	
60	4	4			土師器 1・瓦器碗 1・陶磁器 1	
61	5	#	4		須恵器 1・土師器 12・瓦器碗 1・瓦質土器 1・陶磁器 18・有孔土錐 2・鉄片 1	畠地造成のための堆積土が顯著
62	6	#				# #
63	II-B-1	#			スクレーパー 1	包含層は存在せず。II-B 地区は丘陵尾根筋斜面。
64	2	#				

No.	グリッド 番号	面積 (m <sup>2</sup> )	遺 物			所 見
			セヌカイト	チャート	そ の 他	
65	3	#				
66	4	#	2			
67	5	#		陶磁器 1		
68	6	#				
69	II-C-1	4				
70	2	#				
71	3	#				
72	4	#		1	陶磁器 1	
73	5	#	1	1	土師器 6・陶磁器 7・鉄片 1	II-C-5~9は畑作のため旧地形が削平されている。
74	6	#	(1)		土師器 3・陶磁器 2	
75	7	#				
76	8	#		土師器 1・陶磁器 9		
77	9	#	1			
78	II-D-1	#				II-D地区からは遺物はほとんど出土せず。
79	2	#				
80	3	#				
81	4	#				
82	5	#				
83	6	#	3	2	土師器 3	

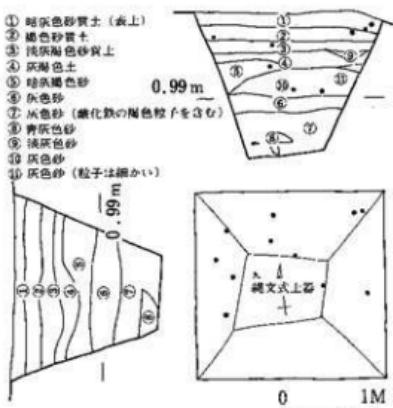
註 土師器・陶磁器・瓦質土器・土錐には中世以後、近・現代のものまで含む。

## 5 主たる調査区

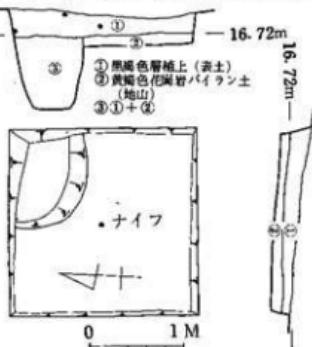
今回の予備調査の結果によると、調査地区内の丘陵尾根・斜面ともかつての開墾・耕作による地形の変形を受け、丘陵尾根は表土の下が地山となり、斜面は開墾に伴う削平と土砂の堆積が著しく、もとの斜面はいま少し急であったと思われる。したがって、調査地区内の丘陵部に良好な旧石器時代遺跡が存在することを期待することは困難であるといえよう。ただ、I-A-5グリッドの発掘で明らかにされたように、丘陵裾部にはさらに別の包含層・遺構が存在する可能性がある。いっぽう、平地部についてはI-A-1グリッドでややまとまって出土した縄文式土器の性格を追求することが必要である。

以下、今回発掘したグリッドのうちいくつかを紹介したい。

I-A-1(第2図・図版2-1) 与島中学校の南の、現在畠となっている平地にあり、I-A地区では最も北に位置するグリッドである。地表面は海拔約2mで表土は砂質土で覆われている。発掘の結果、現地表下約1.5m下の地山まですべて砂層の堆積であった。地表下約60cmまでは土器片などが比較的多いが、それ以下は砂のよごれも少なくサヌカイト片以外の遺物もほとんど出土しない。ところが、地山上の灰色砂層から縄文時代後期の土器が数片まとめて出土した。出土した土器のレベルはほぼ海拔50cmで、やや低すぎるために流れ込みの可能性はあるが、後世の搅乱はないものと思われる。なお、地山はI-A-5に向ってゆるやかに上昇しており、縄文時代後期に湾に面した平地が形成されていた可能性がある。I-A-1グリッドのほか、I-A-4でも縄文式土器と思われる破片が出土し、I-A-5でも同時代と考えられるスクリーパーが出土した。(図版2-2)



第2図 I-A-1グリッド平面図及び断面図



第3図 I-E-2グリッド平面図及び断面図

I-E-2 (第3図) 与島中学校の南にあたる低丘陵の尾根部先端付近のグリッドで、地表面は海拔約16.8mを計る。現在は開墾されてみかん畑となっており、グリッドの北東隅に植樹のための掘り込みが検出された。開墾による削半のためか表土の下は地山となり、堆積土は全く存在しなかった。しかし、表土中よりサヌカイト片2とともにサヌカイト製のナイフ形石器が出土し、この丘陵上に旧石器時代の遺跡が存在した可能性を示している。

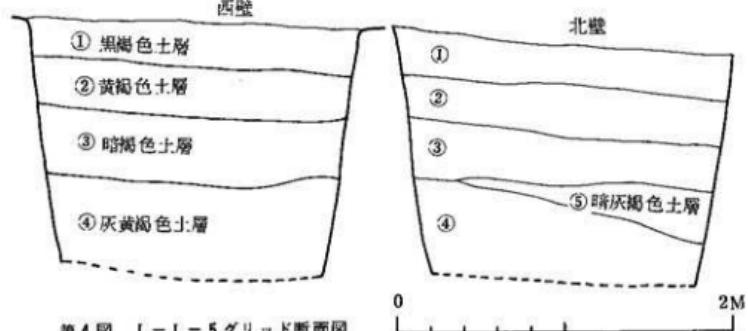
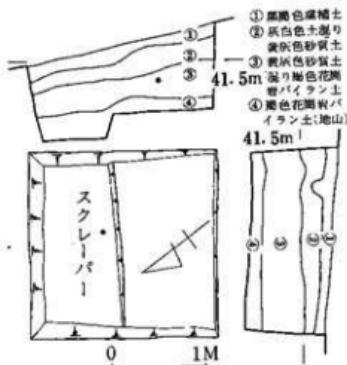
#### II-B-1 (第5図・図版4-2) 第II調査

地区の、丘陵頂部平坦面に近い尾根筋に位置する。地表面は標高約41.7mで、グリッド内で約45cmの傾斜をもつ。発掘による層序は、表土の下に、灰白色土混じり黃灰色砂質土(第2層)が約20cmほどであり、第2層をわずかに含む花崗岩バイラン土、よごれのない花崗岩バイラン土(地山)とつづく。黃灰色土(第2層)は上方よりの堆積土と考えられるが、この層の下部ないしは第3層の上部よりサヌカイト製のスクリーパーが出土した。第3層の花崗岩バイラン土のよごれは植物などの自然的要因によるものではないかと思われる。

I-I-5 (第4図・図版4-1) 第I調査区の南端の谷状になった地点で、東に面した平坦地に設けたグリッドである。

地表面は、海拔約12.2mを計る。

層序は、厚さ約20cmの表土の下に、黄褐色をした第2層が厚さ20cmに堆積している。



第4図 I-I-5 グリッド断面図

第3層は暗褐色を呈し、厚さは約40cmで、この層より中世の遺物が出土した。

第4層は灰黄褐色土でサヌカイト片が数点出土した。この層の下には花崗岩の地山が現われる。

各層とも南北に水平に、東方向にわずかに傾斜して堆積している。

第3層の中世包含層は、4m北に設けたグリッドでは、土層は同一であるが遺物の出土はみなかった。

本グリッドの南に約13mの地点に湧水があり、この湧水のまわりに住居が営まれたものと思われる。

## 6 遺 物

予備調査で出土した遺物は旧石器時代から近・現代にまでわたるが、ここでは中世までを扱うこととする。

今回の調査では明確な遺構は検出されなかったので、これらの遺物は遺構に伴うものではない。出土遺物のうち、鎌倉時代と推定される遺物は良好な包含層より出土し、縄文土器も比較的まとまって出土したが、その他は攪乱層ないし表土からの散漫な出土であった。

旧石器時代の遺物としてはサヌカイト製の半折したナイフと、翼状剥片かと思われる剥片1個のほか、サヌカイト片が多く、少量のチャート片と1片の黒曜石が出土している。しかし、全体からみればこれらの石片の出土点数は少なく、生活跡等の存在を推定するに足るものではなかった。

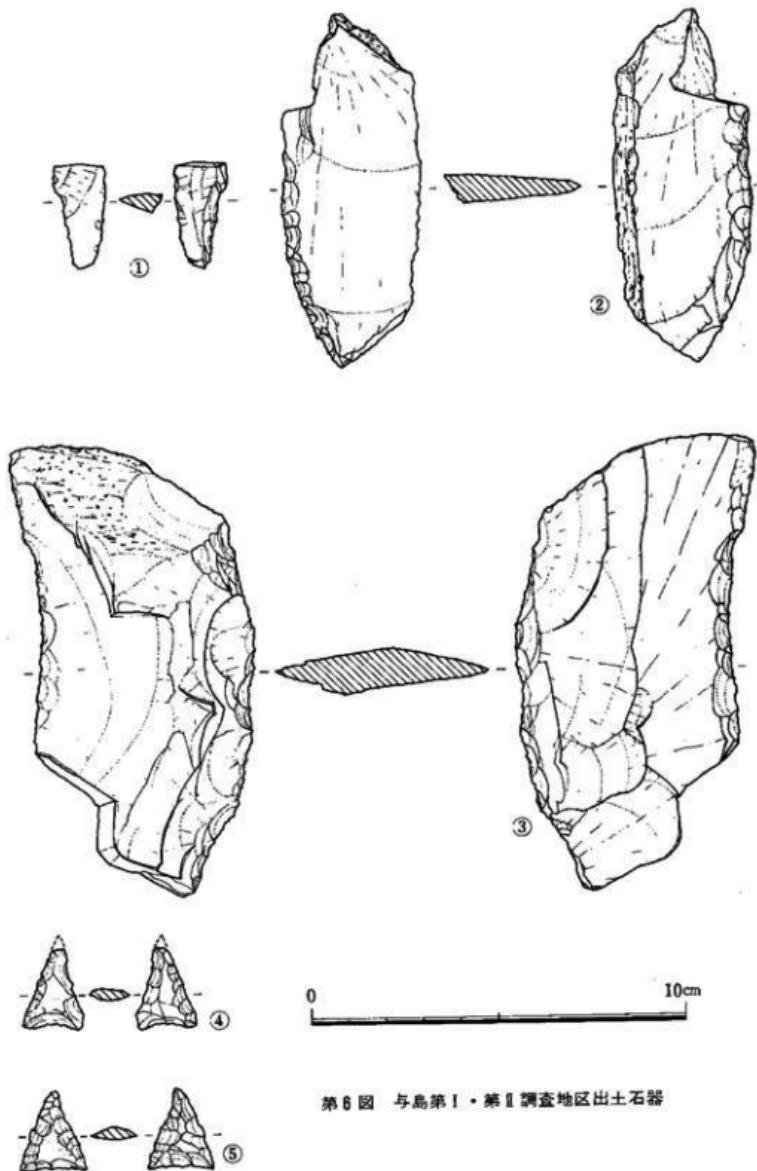
縄文時代のものには後期磨削縄文土器があり、同時代の可能性があるサヌカイト製のスクレーパー・石鐵が各2個出土している。

弥生時代の遺物は発見されなかったが、須恵器は小破片の散布が広く認められた。

瓦器碗・瓦質土器・陶器・土師器碗・糸切り底小皿などの中世遺物は各調査地区で最も多く出土し、この時代の人々の活動が盛んであった様子がうかがえる。特にI-I-5グリッドでは良好な包含層から輸入磁器を含む土器・漁具が検出され、中世の遺跡が存在することが明らかとなった。

旧石器・ナイフ形石器（第6図1・図版5-1） I-E-2の表土から出土したもので、上半分を欠失し、長さ2.8cm、幅1.4cmを計る。サヌカイト製の横長の剥片を用い、打面側の縁辺を刃溝して他方を刃部としている。断面は三角形を呈して背面の稜線をもたないが、翼状剥片を素材としたものと思われる。石材表面の風化度は著しくない。

スクレーパー（第6図2・3、図版5-4） いずれもサヌカイト製で、縄文時代の



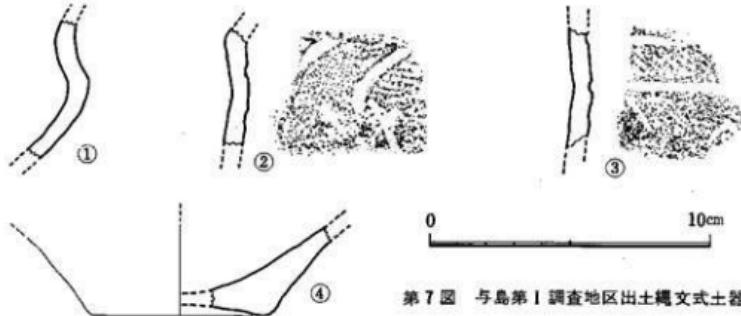
第6図 与島第Ⅰ・第Ⅱ調査地区出土石器

ものと思われる。2は幅広の柳葉形の一辺に調整剥離を施して刀部を作り出している。断面は長三角形を呈し、刀部と反対側の縁辺は自然面のままである。刃部の上部を欠失するが、その割れ口は古い。長さ9.5cm、幅3.7cmである。II-B-1より出土。

3は鎌先状を呈する横長剥片の内湾した縁辺に調整剥離を施して刀部としたもので、長さ12.1cm、幅5.7cmを計る。I-A-5の第2層より出土。2・3とも表面の風化はあまり進んでいないが全体に白っぽい色調を呈し、細かな縮目が認められる。

石鐵（第6図4・5、図版5-3）サヌカイト製の無茎鐵で、基部のえぐりはほとんどない。4は先端部を欠失し、長さ2.2cm、幅1.6cm、5は長さ2.2cm、幅1.8cmを計る。

繩文式土器（第7図・図版5-2）すべてI-A-1から出土したものである。1は無文の浅鉢で、暗褐色～淡褐色を呈し、焼成は不良で表面はやや磨滅している。2・3は後期に属する磨消繩文で、2は「く」の字状に対応する2本の沈線の片側に繩文地を残し、他方を磨消している。3は2本の平行沈線間に繩文帯をつくり、その下部にも沈線文を施す。4は底部で、底径6cm前後を計り、外底面は若干あげ底となっている。1～4とも焼成はあまり良くなく、表面は風化ぎみである。



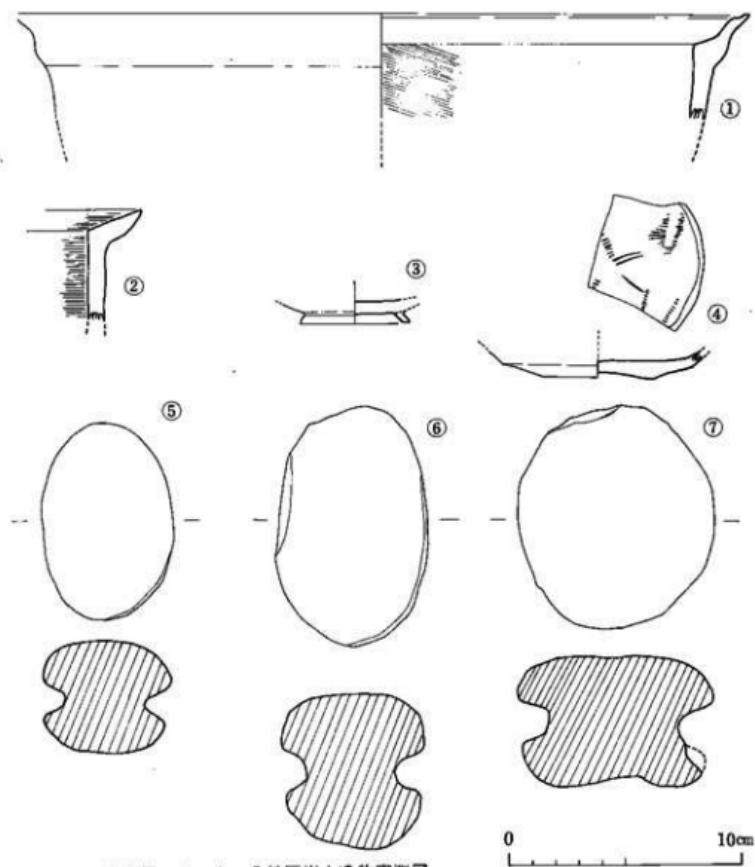
第7図 与島第1調査地区出土繩文式土器

#### 土師質土鍋（第8図1・2、図版6）

I-I-5区から破片が十数点出土した。いずれも口縁部がく字状に外反するもので、鉢がつくものは認められなかった。1は、口径31.8cmで、淡い白黄色を呈する。外面には煤が付着している。胎土は微砂を含み良焼されており焼成も良好である。内面にはハケ目が横方向に丁寧に施されている。

2も同様に土鍋の口縁部であるが、1よりも強く外反して「字形に近い。内面に横方向にハケが施されている。

三脚も数点出土した。



第8図 I-1-5地区出土遺物実測図

土師質塊(第8図3, 図版6)

底径4.8cmで、ふんぱりぎみに高台が貼り付けられている。淡い黄白色を呈しているが、底部内面が薄黒く変色している。

高台の断面は矩形を呈しているが、断面が三角形の粗雑な高台が貼りつけられているものもある。岡山地方で「早島式土器」と呼ばれているものであろう。

青磁(第8図4, 図版6)

底径4.8cmの小皿で、淡い緑色の釉がかっている。底部内面には櫛描文が描かれている。

胎土は灰色を呈している。謂ゆる珠光青磁である。

#### 土錘（第8図5・6・7、図版6）

I-I-5区の包含層から出土した土錘は3点で、いずれも卵形の両溝式土錘である。

5は、長さ8.5cmで両側に深さ約1mの溝がついている。赤褐色を呈し硬く焼き上っている。重量は225gある。

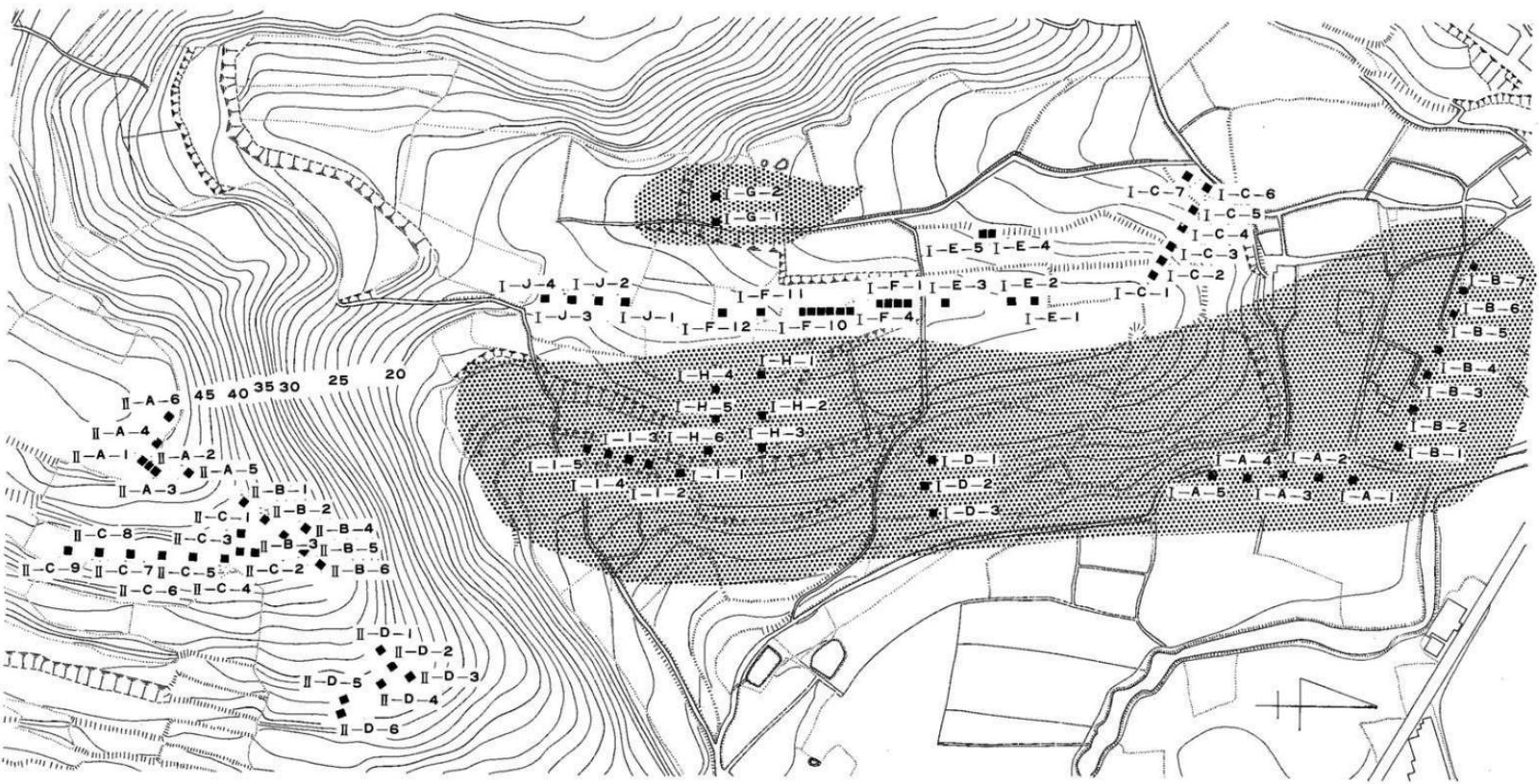
6は、長さ10.3cmで暗黄かっ色を呈している。重量は445gある。

7は、やや偏平な形を示し、長さは9.5cmある。暗褐色を呈している。1mm前後の石粒を多く含む。焼成は良好である。重量は450gある。

#### 7 遺跡の範囲

今回の予備調査は、旧石器時代を主目的として調査を進めたが、前項までに述べてきた通り、丘陵の尾根・斜面とともに地形の変化が著しく、丘陵部に良好な旧石器時代の遺跡の存在を期待することはできない。

一方、丘陵裾部や平坦部については、I-I-5グリッドから中世、I-A-1グリッドから縄文時代の遺物が出土し、丘陵裾部から平坦地にかけて遺跡が広がる可能性が高い。また、丘陵西の谷部に設定したI-G-1・2からも、流れこみと思われるが中世遺物が数点出土しており、I-I-5グリッドとの関連が考えられ、注意すべき地区である。



第9図 遺跡の範囲図

0

100M



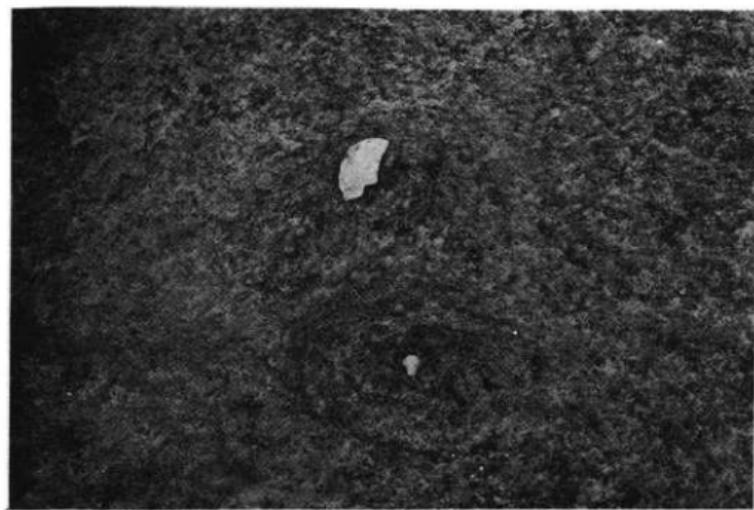
(1) 与島西方地区調査地遠景(1)



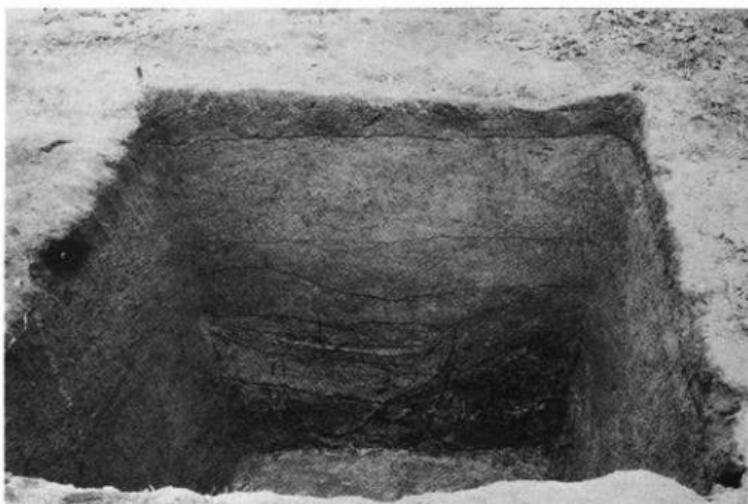
(2) 与島西方地区調査地遠景(2)



(1) I-A-1 グリッド北壁



(2) I-A-5 グリッドスクレーパー出土状態



(1) I-G-2 グリッド東壁



(2) I-I-4 グリッド西壁



(1) I-I-5 グリッド西壁



(2) II-B-1 スクレーバー及び北東壁



1 旧石器(ナイフ)



2 繩文式土器

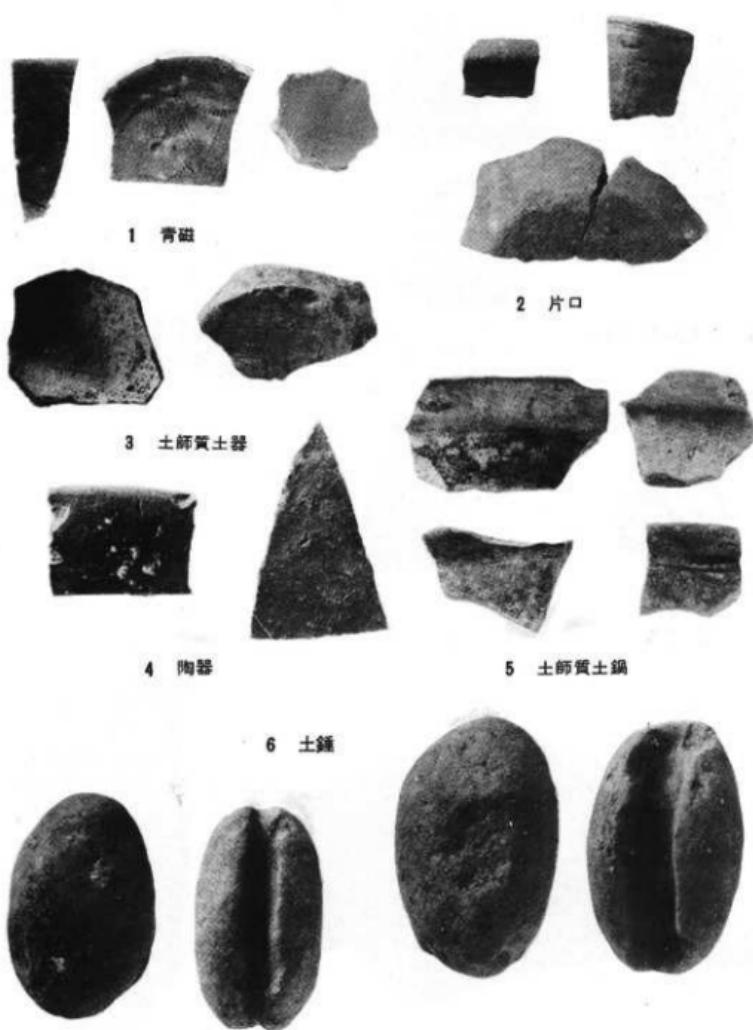


3 石器



4 スクレーバー

第Ⅰ・第Ⅱ調査地区出土遺物 (1)



与島第Ⅰ・第Ⅱ調査地区出土遺物 (2)

---

## 香川県文化財調査報告

---

発行日 昭和52年3月30日

発行所 香川県遺跡探訪会  
高松市番町4-1-10  
香川県教育委員会  
文化行政課内

印刷所 株式会社 美巧社

---